第２　地域療育センター運営事業

地域療育センターは、横浜市が策定した「障害児地域総合通園施設構想」により設置された地域における療育の中核施設として、障害のある小学生までの児童とその家族が、地域の中で安心して生活できるよう、関係機関と連携しながら運営を行いました。

今年度も、これまでの地域療育センターの枠組みに捉われず、利用者や関係機関のニーズを的確に把握しながら、引き続き迅速で質の高いサービス提供を行い、満足度の向上に努めました。

今年度、地域療育センター全体として重点を置き、実施、検討した項目は、次の３項目です。

◇一次支援の導入

相談開始直後の不安や子育ての困り感の強い保護者には、一次支援として早期に心理相談を導入しました。また、親子で一緒に遊べる広場事業として、児には遊びのプログラムを提供し、保護者にはソーシャルワーカーや保育士等と気軽に相談できる場を設定し、保護者の不安軽減に繋げました。

◇今後の地域療育センターのあり方の検討

社会環境の変化やニーズに即した横浜市全体の療育の再構築に向けて、事業団内で課題と方向性を共有、検討しながら、今後の地域療育センターのあり方について、引き続き横浜市こども青少年局及び他法人と定期的に協議しました。

◇支援の拡充

地域療育センターの利用者の増加、ニーズ・状態像の変化や多様化に対応するため、各センターとも支援のバリエーションのさらなる拡大と充実を図りました。

センター名	主な担当区
戸塚センター(児童発達支援事業所「ぴーす東戸塚」を含む。)	戸塚・泉
北部センター(児童発達支援事業所「ぴーす中川」を含む。)	緑・都筑
西部センター(児童発達支援事業所「ぴーす鶴ケ峰」を含む。)	保土ケ谷・旭・瀬谷
港南センター(児童発達支援事業所「ぴーす港南」を含む。)	港南・栄

また、各地域療育センターで重点を置いて実施した項目は、以下のとおりです。

◇　戸塚センターでは、保育所や幼稚園等、所属する集団のない低年齢の児童と保護者を中心に広場事業を実施し、相談開始直後の不安や子育ての困り感の強い保護者を優先的に心理相談に早期に導入したりすることで、保護者が子育てへの肯定感を持てるよう精神的なサポートを行いました。

◇　北部センターでは、開所から 28 年が経過し、危険性の懸念もあった屋根・屋上

園庭・外壁等の補修工事を横浜市と計画し、予定どおり完了しました。また、令和5年度に消防設備等の更新も実施予定です。

◇　西部センターでは、知的な遅れのない発達障害児に対する支援ニーズが多様化する中、従来型の”週1回1年間”の療育に加えて、月2回など低頻度の療育や、就学を念頭においた親支援を主体とする療育プログラムを設定する等、既存のサービスに縛られない療育を展開しました。

◇　港南センターでは、就労のために高頻度の療育への参加が困難な保護者に対して、通年で週1回の児童発達支援を2クラス実施しました。また、2歳児という低年齢の中重度障害児に対しては、児童発達支援の集団療育を新たに9月から計10回実施しました。

1　相　談

◇　ソーシャルワーカーの面接後、主に診察前の親子を対象に、心理士相談を実施しました。保護者の不安軽減や相談への動機づけ、ニーズの把握等を目的として、カウンセリング（気持ちの受容）、主訴の整理、診察への動機づけ、対応のアドバイス等を実施しました。

◇　北部センターでは、一次支援の導入にあたり、診察前から相談対応を開始し、評価及びプランニングの過程で処遇検討する流れを構築し、医療を前提としないサービス提供へ変換してきています。

◇　港南センターでは、保育士相談を 1～3 歳の未就園児保護者を対象として実施しました。児の状態像や保護者自身の迷いなどについての相談を多く受け、児が好きな遊びをしている場面を保護者と共有しながら面談を行い、対応や今後について見通しを持てるような支援を実施しました。

(実績：全科利用申込数)　　※(　)内は昨年度

	幼児		学齢		全体数	
戸塚センター	700 人	(626 人)	100 人	(87 人)	800 人	(713 人)
北部センター	618 人	(625 人)	166 人	(165 人)	784 人	(790 人)
西部センター	716 人	(710 人)	187 人	(166 人)	903 人	(876 人)
港南センター	483 人	(461 人)	90 人	(107 人)	573 人	(568 人)
合　　計	2,517 人	(2,422 人)	543 人	(525 人)	3,060 人	(2,947 人)

2　診療・訓練

◇　保護者支援プログラムについて、オンラインと会場でのハイブリッド開催に利用者もスタッフも慣れてきたことで、内容・種類等の充実を図りました。

◇　戸塚センターでは、未歩行の2歳児以下の肢体系の児童を対象に、育児支援と初期オリエンテーションの両方の機能を担うグループ支援を、年間9回実施しました。

◇　西部センターでは、予診票や薬物療法外来、発達特性に関するパンフレット、整形外科診療に関するマニュアルの改訂等を実施し、診療や訓練の効率的な利用の改善を行いました。また、保育所での地域生活を主体とする肢体系の幼児に対して、就学支援を念頭においたプログラムを開発し、地域の関連機関と連携を図りました。

(実績)　※(　)内は昨年度

センター名	診察数	各種訓練数	外来集団療育数
戸塚センター	2,633 人　(3,202 人)	5,183 件　(5,612 件)	177 人　(167 人)
北部センター	3,478 人　(3,780 人)	6,429 件　(6,201 件)	136 人　(71 人)
西部センター	2,705 人　(2,656 人)	7,751 件　(7,926 件)	108 人　(105 人)
港南センター	2,515 人　(2,381 人)	5,955 件　(6,563 件)	137 人　(129 人)

３　集団療育

(1)　医療型児童発達支援　（戸塚・北部・西部：定員 40 人、港南：定員 30 人）

◇　他機関や福祉サービスを併用している利用児も多く、児童と家族それぞれへの支援の観点から、他機関合同のカンファレンスを積極的に行い、地域でそのご家庭を支援していく方向性の共有ができました。

◇　北部センターでは、2 歳児の集団療育を週 1 回実施してきた結果、児童も保護者も経験の積み重ねが見られました。また、1 歳児のグループでは通園への動機づけもでき、次年度の入園に繋りました。保護者への講座等支援の中で、保護者が就学までの 4～5 年間の療育で何を目標にしていくのかなどの課題を確認することができました。

◇　西部センターでは、年齢・登園頻度や児童の成長に合わせて保護者勉強会を開催し、より具体的なイメージを持って実施できる支援を行いました。また、入院等により状態像に変化のあったご家庭や、家族状況により育児に困難さがある家族に対し、必要に応じて関係機関とカンファレンスを行うことで、タイムリーに情報の共有がなされ、具体的な支援ができました。

(実績)　※(　)内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚センター	10 人　(4 人)	8 人　(10 人)	18 人　(14 人)
北部センター	8 人　(8 人)	10 人　(8 人)	18 人　(16 人)
西部センター	15 人　(14 人)	6 人　(10 人)	21 人　(24 人)
港南センター	10 人　(12 人)	18 人　(17 人)	18 人　(29 人)

(2)　児童発達支援　（戸塚・北部・西部：定員 50 人、港南：定員 60 人）

◇　低年齢児の定期的な登園は、児童にとって生活リズムの形成と、興味関心を広げる機会が得られるとともに、保護者にとっては、通う場が保証されることで保護者同士のつながりができ、育児不安などの共有ができる場となり、早い段階からの支援ができました。

◇　毎年継続している療育参観週間の実施とともに、学校との連携や他の児童発達支援と情報共有する機会も設けてきました。また、家族支援の必要な方のカンファレンスについて、関係機関を積極的に招集し、支援の方向性や情報共有をすることができました。

◇　戸塚センターでは、2 年目となる運動プログラムについて、職員が自発的に段階づけて実践し、発表会当日までの成果を保護者に見てもらうことができました。また、保護者に対しても親子日やクラス懇談を通じて、当日までの様子や取り組みに

ついて伝えていくことで、療育と運動プログラムの連動について、保護者の理解を深めることができました。

◇　港南センターでは、親子日を分散することで、クラス懇談等少人数でより具体的なやり取りができました。また、親子日に保護者に必要な対応方法を示した上で、対応を実践する機会や動画を用いての療育の振り返りをとおして保護者支援を実施した結果、年長児の保護者は卒園のまとめ等をより主体的に作成する方が以前より増えました。

(実績)　※(　)内は昨年度

センター名	継続利用児		新規利用児		合計	
戸塚センター	46 人	(41 人)	76 人	(82 人)	122 人	(123 人)
北部センター	54 人	(48 人)	56 人	(52 人)	108 人	(100 人)
西部センター	32 人	(39 人)	33 人	(40 人)	65 人	(79 人)
港南センター	45 人	(49 人)	61 人	(64 人)	106 人	(113 人)

⑶　児童発達支援事業所「ぴーす」　(戸塚・北部・西部・港南：定員 48 人)

◇　横浜ラポールのスポーツ指導員の協力のもと、運動評価を実施し、評価に基づいた運動プログラムを展開しました。また、スポーツ指導員のスーパーバイズを受け、支援技術の向上に取り組みました。

◇　卒園児のフォローを１年生と２年生の保護者を対象に実施しました。また、高学年の保護者を対象に、ソーシャルワーカーを講師として、座談会を実施しました。卒園後、療育の場からしばらく離れていた保護者が同じ悩みのある保護者と久しぶりにつながりを持つ機会となり、必要な情報を得られて今後の見通しをたてることができたと参加者から好評をいただきました。

(実績)　※(　)内は昨年度

センター名	継続利用児		新規利用児		合計	
戸塚(ぴーす東戸塚)	37 人	(11 人)	11 人	(36 人)	48 人	(47 人)
北部(ぴーす中川)	10 人	(9 人)	39 人	(39 人)	49 人	(48 人)
西部(ぴーす鶴ケ峰)	29 人	(24 人)	35 人	(48 人)	64 人	(72 人)
港南(ぴーす港南)	28 人	(26 人)	34 人	(29 人)	62 人	(55 人)

４　地域支援

◇　保育ネットワーク事業として、地域の保育所等と共同の研修を企画し、インクルーシブな地域社会を作っていくことについて意見交換し、相互に理解促進を図りました。また、子育て支援拠点とは、協働事業やスタッフ向け・保護者向けの研修を実施する中で、支援者支援を進める機会にもなりました。

◇　スクールソーシャルワーカーとの情報交換会を企画し、多様な職種を交えて、要フォロー利用者等への対応や地域のネットワーク作りについて議論しました。また、この会をきっかけに日々の業務においても、スクールソーシャルワーカーとの連携が密に行えるようになりました。

(実績：0歳4か月療育相談)　※(　)内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	12回　(12回)	78人　(42人)	5人　(1人)
北部センター	10回　(9回)	58人　(46人)	7人　(11人)
西部センター	12回　(12回)	118人　(98人)	6人　(7人)
港南センター	12回　(12回)	64人　(48人)	3人　(3人)

(実績：1歳6か月療育相談)　※(　)内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	6回　(5回)	10人　(9人)	4人　(4人)
北部センター	5回　(6回)	9人　(8人)	5人　(5人)
西部センター	6回　(6回)	10人　(10人)	5人　(5人)
港南センター	2回　(4回)	3人　(5人)	1人　(1人)

(実績：関係機関技術支援)　※(　)内は昨年度

センター名	機関数・回数
戸塚センター	107か所・123回　(89か所・ 92回)
北部センター	260か所・283回　(167か所・185回)
西部センター	154か所・235回　(168か所・181回)
港南センター	120か所・258回　(152か所・164回)

(実績：学校支援事業)　※(　)内は昨年度

センター名	学校数・回数
戸塚センター	9校・12回　(14校・14回)
北部センター	18校・34回　(13校・22回)
西部センター	13校・14回　(2校・ 2回)
港南センター	12校・18回　(12校・15回)